天(あま)の原(はら)そらなる河のわたし守秋(あき)にあへども心(こころ)よせなん

天(あま)川(がは)うきあし間きやみの瀬(え)さに待たどる浅瀬(あさせ)渡(わた)し

なかぞらの舟路(ふなぢ)をさして逢(とと)ふかとしなば一(ひと)世(よ)に一(ひと)たびのする

星合(ほしあひ)のみそれ夕(ゆふべ)やさしがりのよそふかろいふ絶(たえ)せじ

小夜(こや)ふけちふりのあかれも事(こと)はて更(ふ)くるときき星合(ほしあひ)の歌(うた)

ふかげの妻迎(つまむかへ)舟(ふね)こそしらし嵐(あらし)ふくなる天(あま)の川(かは)せ

索餅(さくべい)をこのみたりし由(よし)。人(ひと)ゝまと似(も)く霊鬼(りやうき)となりけるとかや。後(のち)の人(ひと)七日(なぬか)索餅(さくべい)を食(しよく)すれバ。年中(ねんぢう)瘧病(おこりやまひ)をまぬかるといへり。公事(くじ)根源(こんげん)にも。内膳司(ないぜんし)よりこれを調進(てうしん)す。今日(けふ)さくべいと用ゆるハ思ふあやまりなりとあり。索餅(さくべい)ハさうめんの事なり。三月節供(せちく)の蓬餅(よもぎのもち)五月節供(せちく)の角黍(ちまき)九月節供(せちく)の栗子(くり)と同(おな)じ節供(せちく)ぞ。二星(じせい)に願(ねが)ひの糸(いと)をさゝげてよき縫(ぬひ)を習(なら)へといのる祈願(きぐわん)をかけまつりしならひぞ